

2023.12.15 Vol.2

CONTENTS

- P.2-3 Pick up NPO
・NPO法人 コーヒータイム
・特定非営利活動法人 Lotus
- P.4-5 あきたNPO会議2023
- P.6 きずな&マッチング事業経過報告
- P.7 NPOと行政の対話フォーラム
NPO活動に必要な個人情報保護
- P.8 ほっと一息ブレイクタイム
助成金情報

福島特定原子力施設地域振興交付金事業

チャレンジインターンシップ 活動成果報告会・閉講式開催



10月28日(土)にチャレンジインターンシップ「活動成果報告会・閉講式」が郡山商工会議所で開催されました。

報告会では、インターンに参加した修了生から、インターンに参加した感想やこれからの福島への思いなどの発表があり、各受入団体からは、修了生の今後の活動への温かいエールが送られました。

閉講式では、福島県から修了生35名へ修了証書が授与され、共催のコカ・コーラボトラーズジャパン(株)からは記念品の贈呈が行われました。



活動レポートはこちらから

URL <https://f-intern.f-saposen.jp/topics/report/>



活動の様子を紹介した動画は
こちらから

URL <https://drive.google.com/file/d/1gPoNWEkaNfP96nneGACxcU0GLEfalQKV/view?usp=sharing>





NPO法人 浪江町 コーヒータイム



<http://coffeetime.a.la9.jp/>



2022年7月オープン!
「コーヒータイムなみえ」

まちのみんなの憩いの場

特定非営利活動法人 Lotus 会津若松市



<https://www.lotusjapan.org/>



ロータス保育園
の様子

すべてのお母さんを、一人にしない

特定非営利活動法人Lotus(ロータス)は2010年に24時間対応(当時)保育園を設立し、2012年にNPO法人化。屋内遊び場、コミュニティカフェ、木育キャラバンと様々な取り組みをしている団体です。保育園は、認可ロータス保育園と認可外ロータスキッズ保育園の2施設があり、日曜日保育の先駆けとして働く保護者、育児世帯の「困った」に対応してきました。

今回はロータスで行っている事業のひとつ「木育(もくいく)」について紹介します。

木育とは「三つ子の魂百まで」といわれている様に、乳幼児期から自然素材(木)に触れて育つ事によって、子どもたちの感性豊かな心を育むプログラムです。ロータスでは五感の育成に着目し、将来の豊かな人間関係の構築に木育が大切であると考え、「木育広場もくれん」を創りました。

もくれんは、震災後に子どもたちが安心して遊べる屋内遊び場としてオープンした、地域と人が繋がれるコミュニティの場、多世代間交流のプラットフォームです。館内の遊具はすべて木製で、巨大木やすべり台、ひのきのたまごプールなど、子どもたちに大好評です。子どもから大人まで、木に

触れる事でリラクゼーション効果が期待でき、「もくれんで遊んだ日はぐっすり眠れる」との声があるそうです。

また、自治体や児童養護施設など様々な場所に出向き、どんな場所でも木のおもちゃや遊具でいっぱいにして自然に親しむ木育の場を提供する「木育キャラバン」を実施しています。この事業は震災後のイベントで、家族を失ってしまった子どもたちが、持ち込んだたくさんの木製おもちゃで楽しそうに遊ぶ姿を見て、理事長の山口さんが、会津にあるもくれんに行けない子どもたちの為に「出張キャラバンをしよう!」との想いでスタートさせました。「最近ではSDGsモノづくり体験の出張も人気で、私たちがお手伝いすることでお父さん、お母さんが子育てを楽しめる環境を作りたい」と山口さんは話します。さらに「来春、新しい施設を開設予定で、地域、まち、通りの活性化、賑わい作りにロータスが貢献できる子育て支援施設を目指します」と力を込めます。

あなたのまちにも木育キャラバンを呼んで、子どもたちを笑顔にしてみませんか?



ハイチーズ!



職員・利用者
みんな仲良しです!

NPO法人コーヒータイムは2006年4月、主に精神障がい者のための作業所として浪江町でスタートしました。当初喫茶店はありませんでしたが、団体名『コーヒータイム』は、理事長の橋本さんが設立前にボランティアで参加していたデイケア時代、皆で「まちなかで喫茶店をやれたらいいね」と話していたことが由来だそうです。

設立から17年を振り返ると、東日本大震災後、避難先の二本松市で事業を再開する際は、自分たちで一から開拓するなど大変な苦労がありました。これまで続けてこれたのは「精神疾患をお持ちの方々が皆優しくピュアで、私自身が癒してもらっているおかげ」と橋本さんは話します。

2022年7月、浪江町での事業を再開させました。当時町民は1,000人もいなかったため、まったくゆったり喫茶店の運営をしていくつもりでしたが、間もなく町に国の研究機関が入ってきたことにより人口が増え、現在は毎日大忙しで嬉しい悲鳴があがっています。喫茶店の隣にはデイケアや地域包括支援センターがあることから、高齢者の方が集まる場所としても

利用されており、町のみんなの憩いの場となっています。

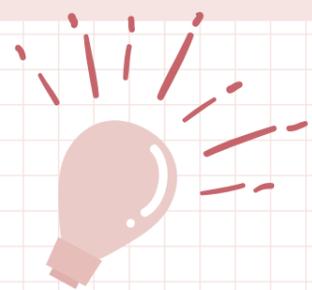
現在、コーヒータイムは二本松市と浪江町で1事業所・3店舗を運営しています。橋本さんは震災以来、浪江町での事業再開を最終目的として頑張ってきました。しかし、いざ再開してみると、継続していく基盤づくりが必要と感じています。また現在、浪江町では喫茶店の運営のみですが、スタッフや利用者さんが作業する場所も必要です。さらに、二本松市の事業所のスタッフ、利用者さんは地元の方がほとんどで、現在間借りしている事業所を、平屋で駐車場が十分に確保でき、洋式の綺麗なトイレを完備した建物を建てたいと考えています。

「私はいったい何歳まで生きればいんでしょう?」と笑って話す橋本さんの表情からは優しさと希望があふれ、まだまだ第一線で走り続けていく姿が想像できました。東日本大震災から12年、復興半ばの浪江町で喫茶店再開を果たし、町の癒しの場となっているコーヒータイム。お近くにお出かけの際は、ぜひ足を運んでみませんか?



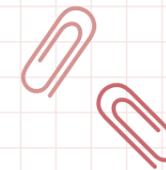
「木育広場もくれん」

木育キャラバンで遊ぶ子どもたち



まなぶ! っながら!

あきたNPO会議2023



「東北のNPOが描く未来地図～これからのあゆみ・未来へのまなざし～」から何を思う?

今年の12月でNPO法が施行されて25年が経ち、全国では25周年を記念した行事が開催されています。

東北でも10月14日・15日に東北のNPO関係者が集まる「あきたNPO会議2023」と題したイベントが秋田県で開催されました。



東北6県会議(意見交換会)・現地視察



あきたNPO会議の後は、世界遺産の白神山地がある秋田県藤里町で活動している「NPO法人ふじさと元気塾」で活動の様子を伺い、実際に運営している農家民宿に宿泊し、東北6県の中間支援団体関係者との意見交換を行いました。

NPO法人ふじさと元気塾

ご紹介いただいたのはNPO法人ふじさと元気塾。この団体は、「農家民泊」「農家レストラン」「食品加工・木工工芸品」など様々なツールを活用しながら、地域の資源を魅力として発信し、地域活性化を行っています。行政との協働事業も複数行っており、人口減少、高齢化、環境保全などの課題に対して、地域資源を活かし、地域住民を巻き込みながら課題解決に取り組んでいます。

その他に、イワナ養殖も行っており、お土産や農家レストランのメニューなど、地域の特産物を増やすことに一役買っています。「炭火で焼いたイワナは臭いがなく、観光客にも大好評を得ている。」とのことでした。また、農家民宿を行うことで、高齢化した住民のやりがいを創出するなど、地域資源を強みとした継続的な活動をしていることが強く印象に残りました。

NPO法人ふじさと元気塾 <https://www.fuzisato.info>

あきたNPO会議(シンポジウム)



第1部

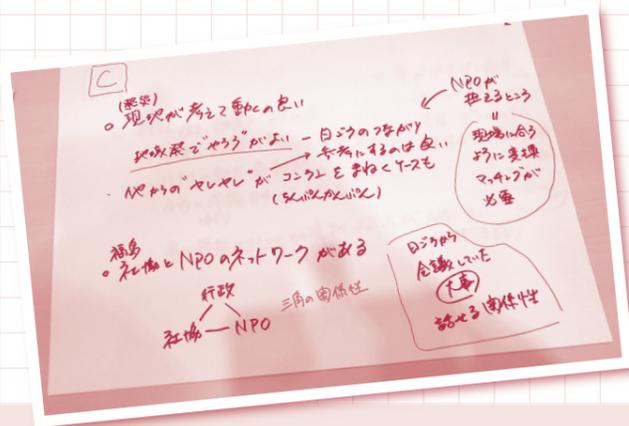
「NPO法施行25年今までとこれから」をテーマに認定NPO法人日本NPOセンター事務局長の吉田建治さんが講演を行いました。阪神淡路大震災が1つのきっかけとなり制定された特定非営利活動促進法(NPO法)は、NPO法人が活動する上で活用しやすいかどうかなどが検討され、これまで何度か改正を行ってきました。この法律はNPOが活動しやすくするためにあることやその背景を吉田氏の経験を通して振り返りました。また、これからのNPOを担う若者はNPO法が制定されてから生まれた方が多く、今後どう育成し、どんなことを考え活動していくかについての期待が語られました。

ランチセッション

ランチセッションでは、東北6県中間支援団体の動きを紹介し、交流を行い、他県の情報に自身の足元を見つめ直す時間となりました。

第2部

「自然災害時の連携について考える」をテーマにグループセッションを行いました。グループには、秋田県、岩手県の行政関係者や災害支援に関わるNPO団体などが参加し、これまでの事例や課題が紹介されました。グループセッションの全体共有では「連携とはこれまで平らなつながりと考えられていたが、課題は多面的なもの。1つの課題にも多種多様な立場の方が関わっている。そこで立体的な連携をめざしたい。」との意見が出ていたのが印象的でした。



参加した各県のNPOの様子や中間支援団体・NPO支援センターの動き、近年多発する自然災害への対応や支援状況などを話し合い、「他県でも参考にできる点」、「東北でできるネットワークの可能性」、「NPOの継続的な活動」、「人材育成」をテーマに意見交換を行いました。

各県や市町村でNPOの担当部署が異なり、それぞれNPOに求めるものが違うことに驚き、地域の特徴的な状況やNPOの様々な活動を新たに認識し、福島県でできることを改めて考える機会となりました。

特に印象に残ったのは、地域資源をリサーチし見直すことで、NPOの事業の説得力や地域を巻き込む力が増し、団体の継続に繋がるということです。福島県でもこの手法を活かせる団体が多いのではないのでしょうか。

最後に、後継者問題に悩みを抱えるNPOに中間支援センターの伴走支援が必要なのではないか? 中間支援組織が担うべき災害支援業務はどこまでか? など、今後も検討が必要な課題は多く、非常時にネットワークを維持するためにも、お互いを知ることができる今回の関係性は重要で、今後も定期的に意見交換を続けていきたいと話されました。

東北6県の中間支援団体との意見交換



経過報告

ふるさと・きずな維持・再生支援事業

東日本大震災及び原子力災害からの復興に向け、NPO法人などが行う復興支援や風評払拭などの取組を支援する事業です。

実施
団体

学校法人山口学園
ECC国際外語専門学校(大阪府)
～福島視察スタディツアー～

学生が福島県を訪問し復興の歩みを学び、安全性や魅力を体感するツアーを9月に開催しました。震災遺構浪江町立請戸小学校や川俣町のアンズリウム栽培などを視察し、福島県の現状を学びました。スタディツアーを通して得た情報は、12月に校内で開催するチャリティカフェや福島県産品を販売するマルシェなどで発信し、風評払拭に繋がっていきます。



NPOと企業などのマッチング事業



複雑・多様化する地域課題へ対応するため、NPOと企業の協働を推進する事業です。



NPOに対して行ったマッチングに関するアンケートでは、協働による団体の変革に期待するなど、企業との協働に関心を持っている回答が多くあり、10月・11月に開催した事前講座では、講師からアドバイスを受けながら協働への理解を深めるNPO関係者の熱心な姿が見られ、関心の高さがうかがえました。

12月5日の郡山会場を皮切りに県内4会場が始まったマッチング会には、多くのNPOや企業が参加し、自身のNPOの紹介や企業との直接のやりとりなど協働への熱心な姿勢が見られました。

参加して、すぐに企業とのマッチングが進むわけではありませんが、まずは相手(企業)を理解することが第一歩です。この事業をきっかけに企業との交流を深めましょう。

「NPOと行政の対話フォーラム'23」

に参加して



8月31日に、認定NPO法人日本NPOセンター主催の「NPOと行政の対話フォーラム」が行われました。これは、毎年、参加する対象者に合わせてテーマを変えながら、NPOと行政の協働について事例紹介やセッションが行われる場です。今年は協働に取り組んでいる行政やNPO中堅職員が対象となっていました。

開催場所は、日本で初めて設置されたNPO支援センターの「かながわ県民センター」。このセンターは事業や相談対応、貸館管理運営など、事業ごとの運営を行政と複数の専門NPO団体が行っており、県民活動サポートセンター業務を複数の組織が一緒に行う協働事例の1つとなっています。

フォーラムは4部からなり、それぞれの事例を基に、協働についての課題などが議論されました。

- 第1部…書籍「誰も断らない 生活保護課」(朝日新聞出版)で知られる神奈川県座間市長と、官僚経験や東日本大震災支援活動経験を経て市長となった静岡県掛川市長の基調鼎談「多様な主体との協働で誰も取り残さない地域をつくる」
- 第2部…言語がわからず学べない子どもたちがいるという課題解決に向けて、外国人向け教科書の作成と配布に取り組んだ神奈川県教育委員会とNPOの事例「声を拾い上げ、支えを広げる」
- 第3部…何も無い砂浜を地域資源ととらえ、魅力発信により観光資源とした高知県黒潮町の事例「資源に目を向けて、結び目をつくる」
- 第4部…NPOと行政の持つ背景から、どう関係性をつくることで協働に繋がるかを考える「市民自治を育み、誰も取り残さない地域づくりにむけて」

全ての事例に共通していたことは、組織などの立場が違うと持っている背景もそれぞれ違うということです。違う組織同士が互いを理解するのは難しいことですが、どんな「背景やルール」があり、どんな「強み」があり、「どんなことが苦手」なのかを可視化し、互いを理解することでどう「役割分担」ができ、どう「課題に向き合うか?」という整理をすることが、win-winの関係を築き、協働のスタートを切ることができるのではないかと思います。しかし、立場の違う者が共通言語を話し、同じゴールやその過程(計画)をみつめるにはお互いを理解するための時間が必要だと感じました。

NPO活動に必要な 個人情報保護を改めて確認してみよう!

会員情報や利用者の情報、講座の参加者情報、寄付者の情報など、NPOの運営で個人情報を扱うことは少なくありません。その中で「メールアドレスを公開してしまった」「会員情報を他の会員に伝えてしまった」など、個人情報の扱いが難しいという相談を受けます。そこで、活動において個人情報保護のポイントを確認してみましょう!!

- 個人情報を利用目的を示して、本人から収集する
個人情報を収集する時は、利用目的を本人に説明するか、予め公表する必要があります。
(パンフレットやチラシ、ホームページなどに利用目的を記載して収集すると説明を簡略化することができます。)
- 個人情報を利用目的以外に利用しない
収集する際に示した目的以外に利用しないでください。目的以外に利用する場合は本人の同意を得る必要があります。
- 個人情報は安全に管理する
収集した個人情報が漏洩などしないように、「パスワード設定」や「ウイルス対策ソフトをパソコンに入れる」、「鍵のかかるロッカーに保管する」など、安全に管理してください。
- 個人情報を勝手に第三者に渡さない
個人情報を本人以外の第三者に渡すときは、原則として、予め本人の同意を得なければなりません。

皆さんが日頃、注意しているポイントだと思いますが、忙しい活動の中で思わず忘れていたりすることがないように改めて見直してみてください。

※参考:個人情報保護に関する法律についてのガイドライン(個人情報保護委員会) HP https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/guidelines_tsusoku/



古民家café imoca

運営：NPO法人0073(おおなみ)



築100余年の養蚕古民家の柱や梁を残しつつ、リノベーションしたどこか懐かしい雰囲気漂うカフェ「古民家café imoca」。

おすすめは、干し芋のペーストが入ったチーズケーキ、食べた瞬間チーズを感じますが、数秒後にはさつまいもの甘さが追いかけてくる、他では味わえないケーキです。他にもナッツとさつまいものケーキやプリンなどの創作スイーツ、香り高い有機栽培のオーガニックコーヒーが味わえます。大波地区に広がる自然や田園風景を眺めながらの癒しのひと時は是非お過ごしください。



- ランチ 和食(水曜)・パスタ(土曜)・パン(日曜) …………… 1,200円～1,400円
- おいもnoチーズケーキ …………… 580円
- 抹茶のプリン(季節限定) …………… 480円
- オーガニックコーヒー …………… 430円

住所／福島市大波字上屋敷前30 【営業時間】10:30～16:00 (L.O.15:30)
TEL／024-573-5508 【定休日】毎週月曜日・火曜日

助成金情報

チャレンジしてみよう!

NPO関連の助成金情報については当センターのウェブサイトをご覧ください。
<https://f-saposen.jp/category/subsidy/>



◇まちづくり、子どもの健全育成、観光、農山漁村などの振興ほか

シン・みらいチャレンジプログラム【支援元／主催：サントリーホールディングス株式会社

共催：公益社団法人日本フィランソロピー協会・岩手日報社・河北新報社・福島民報社】

- 助成対象／ 岩手・宮城・福島3県で地域活性化・地方創生に取り組んでいる団体または個人
- 申込期限／ 2024年1月10日(水)
- 上限金額／ 1団体・個人あたり100万円/年
- 参考URL／ <https://www.suntory.co.jp/company/csr/support/shin-mirai/>

◇子どもの健全育成

第1回 子どもすこやか基金【支援元／公益財団法人日本フィランソロピック財団】

- 助成対象／ 非営利団体が生活困窮家庭の子どもたちへの食事の提供や食料品・日用品の配送などの緊急度の高いニーズに対し迅速な支援を届ける活動
- 申込期限／ 2024年1月17日(水)17時
- 上限金額／ 1団体あたり500万円
- 参考URL／ <https://np-foundation.or.jp/information/000160.html>

◇環境

自然公園等保護基金【支援元／公益財団法人公益推進協会】

- 助成対象／ 日本国内の自然公園等におけるすぐれた自然環境の保存及び活用に関する実践活動、普及啓発活動等を行う団体
- 申込期限／ 2024年1月19日(金)17時
- 上限金額／ 1事業あたり100万円
- 参考URL／ <https://kosuikyo.com/>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県

運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町 8 番 2 号 福島県自治会館 7 階
TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp URL <https://f-saposen.jp/>

◆県内の認証 NPO 法人団体 / 927 団体

◆認定 NPO 法人団体 / 22 団体 ◆特例認定 NPO 法人団体 / 0 団体 2023 年 11 月 30 日現在

編集後記

秋田に出張し、熊に遭遇!!ビックリの体験となりました。【内山】
節目の年。ひしひしと年齢を感じる1年でした。【村松】
久しぶりに福島市に戻り、山の冬景色に感激しています。【伊藤】
健康維持には食生活が大事ということが身に染みる昨今【齋藤(美)】
年末の忙しさを忘れ、温泉でゆっくりしてみたいです。【阿部】
去年大活躍した湯たんぽに、今冬も助けられています。【佐藤】
スノボ行くぞ!しかし雪は降るのか? 【齋藤(宏)】
手袋を新調しました。防寒対策万全です。【本田】
冬はたくさん歩いて健康維持につとめます。【武田】